

IFA レフェリーキャンプ2023 開催レポート

茨城県内の1級も含めた審判員・審判インストラクター合同でトレーニングを行う2023年シーズン開幕に向けたIFAレフェリーキャンプを開催しました。プロフェッショナルレフェリー(以下「PR」)の飯田淳平さんをお迎えし、審判員へのアドバイスと交流を行っていただきました。レフェリーキャンプは2013年から開始し今回で10回目となりました。

【日程】2023年1月7日(土)~1月8日(日)

【会場】神栖総合公園サッカー場、神栖武道館会議室

<スケジュール>

1月7日

10:00 フィットネストレーニング

13:30 フィットネストレーニング

16:15 座学

1月8日

10:00 プラクティカルトレーニング

●フィットネストレーニング●

テーマ【動きながら判断を繰り返す】

- ・ 審判員は試合中に動きながら心拍数が上がった状態で判断を下します。
早い判断を繰り返しながら仲間の助言で自分の行動を変えることもあります。

様々なルールのもとグループごとにコミュニケーションをとりながらトレーニングを行いました。



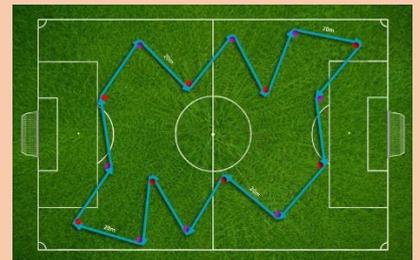
(文:岡部拓人)

●PRによるフィットネストレーニング●

- ・ ダイナミックヨーヨー

FIFA レフェリーが行っているフィットネストレーニングの実践。
角度や距離、設定時間や本数を工夫しながら普段のトレーニングにも取り入れてほしい。

※走りながら曲がる時には、一つ先を見ながら走ることで直前の細かいステップを調整できる。走ることが目的になると視線が落ちてしまう。



- ・ ペナルティーエリア付近の事象に対するアプローチ

中盤で体の向きを意識するステップからスタート、ペナルティーエリア付近でボールがどこに落ちるかを予測しながら動き、判定する。

ボールが落ちる場所を予測してどうやってアプローチするか、角度や距離など何を優先するかを選択する。

見えにくかった、見えなかった際に副審からの情報を取り入れる。副審も自分のポジションから得られた情報を主審に伝える。

※中盤の動きから体の向きを意識する。予測から角度や距離、動き出しを工夫する。

※わかりやすいシグナル、ジェスチャー、ポイントに寄る方向やスピード。

→選手や見ている人が直感的に受け入れることにつながる。

(文:岡部拓人)

●座学●

テーマ【枝葉を増やすために/バランス】

ご自身が担当した国際試合の中で実際に起きた「ペナルティーエリア付近の事象」から。

・成功、失敗経験から次にどのようにつなげるかを振り返ることが重要
→普段から数値化できる部分を明確にして継続することで自分のコンディションを客観的に捉えることができる。

例) 試合や普段のトレーニングから心拍系を用いて心拍数や距離数を記録して振り返る。

・ビデオクリップの紹介

正誤の確認と、最初に見た印象と振り返りの印象の違いに気づく。

そこから違いの原因になった理由が何かを明確にする。

→意識しないと見えない。

「気にする、興味をもつ」→いつ、どこで、どのタイミングで、を整理する。

・相反する言葉を状況によって使い分ける。

例) 集中⇔開き直り

自分で決める⇔助言を取り入れる

●プラクティカルトレーニング●

<ペナルティーエリア付近の判定とフリーキックコントロール>

ハーフコートを使った6対5+GKの状況の中で、審判員は、ペナルティーエリア付近で起こる事象を判定し、その後のフリーキックをコントロールするところまでをトレーニングしました。

審判員は、実践をした後、すぐにインストラクターからアドバイスをもらい、ボールが前後左右に展開される中でも、どう動けば、事象を明確に判定できたかを振り返り、争点と次の争点の状況も視野に入れられるようなポジショニングをすることの重要性を認識していました。

また、フリーキックコントロールでは、セレモニーに入ったときの手順とそのときに注意することなどについて、気づきを得ていました。

<副審プラクティカルトレーニング>

・ベンチ近くでのタッチラインアウトとゴールラインアウトの判定

・シュートに関わるオフサイド判定

ベンチ前でのタッチラインアウトの判定は、主審・副審とも見えにくいいため協力して正しい判定に導く。

ゴールラインアウトは、副審がトップスピードで追い込んだ時に判定することがあり、見極めの難しさをトレーニングで体感し、試合での正しい判定に導く。

シュート後にゴールキーパーから跳ね返ったボールを押し込んだ場合、オフサイドポジションにいたかどうかを正しく見極め、オフサイドの正しい判定に導く。

上記3つのシチュエーションを連続して判断することで、より実践に近い判定をトレーニングしました。

<ゲーム実践>

最後に11対11の試合のレフェリーを行いました。5分交代で2人ずつ主審や副審を行い、動きやポジショニング、判断について、その2人の違いを議論したり、飯田PRやインストラクターからアドバイスをもらい、確認をしました。(文: 塚越由貴 田尻智計 柿沼亨)

レフェリーキャンプの様子



まずはキャンプ開催にあたりまして神栖市関係各所の皆様、プラクティカルトレーニングにおいてはデモンストレーターとしてご協力くださいました波崎高校サッカー部の皆様、お忙しいところ調整頂きご指導くださいましたPRの飯田淳平さんへ感謝申し上げます。

主な参加者は普段からアクティブに活動を行っている審判員、審判インストラクターなど茨城県サッカー審判員の中心になって活動されている方でした。ユース審判員からベテラン審判員が参加し、普段の試合を担当するときには見せない表情でコミュニケーションをとりながら実施することができました。

講師の飯田さんは国内はもちろん国際経験が豊かで実際に担当した試合で起きた事象を紹介していただきました。事象分析はもちろん、どのような気持ちだったのかも伝えていただき、参加者はリアリティをもって聞くことができました。普段から数値化したり気持ちをメモして後日振り返るときの参考にするなど客観的にご自身をみつめる部分を持ちながらPDCAのサイクルをまわしていることなど紹介していただきました。2級時代の話もあり、上級を目指す参加者には刺激になったと思います。

年明けのレフェリーキャンプは形を変えながら今回の開催で10回目(2021年は中止)を迎え、PRの方をお招きするようになってからは7回目となりました。多くの方にご参加頂き、本格的なシーズン開幕へ向けた県内審判員、インストラクターの合同トレーニングとして定着してきているのではないかと感じています。他県からの参加者は宮城県の審判員と指導者にくわえ、今回から愛知県から指導者2名も参加していただきました。現場での指導や情報交換はもちろん他県で行われる大会への招待など交流を継続することにつながっています。

茨城県審判委員会としては、今後も審判員、インストラクターの育成・強化及びより良い活動環境を目指したサポートをするために様々な取組みを行っていきたいと考えています。今シーズンもどうぞ宜しくお願い致します。
(文:岡部拓人)



波崎高校サッカー部の皆様 ご協力ありがとうございました!!